

# UNITAS

NO. 446 JUNE 2013

特集 立命館のグローバル人材育成



### 3 言語が飛び交う共同生活

学生たちは、お互いの国の文化や習慣などを理解することを目的とし、京都市内で共同生活をしています。言葉も文化も常識も異なる3カ国の学生が、衝突しながらも話し合い、助け合うことで、異文化コミュニケーションを実践するだけでなく、強い信頼関係と深い友情が育まれます。

この日は、餃子パーティー。  
3言語が飛び交う中、  
今回は「日本風の餃子」  
を作りました。



ちゃぶ台を囲んでの  
夕食タイム。笑顔が  
絶えません。



「日本は『刺し箸』や『寄せ箸』など箸  
のルールがいろいろあって大変です」  
(KWAK REGINA さん)

みんなで家事も分担します。



京都市内の日本家屋が寮に  
なっています。

学生  
コメント



山本すみれさん  
(文学部2回生)

共同生活では、「日本の当たり前が通じない」ことが大変です。ゴミの捨て方や騒音の問題など、日々「違い」が生じます。週1回のミーティングでは、各自が注意して欲しいことなどを伝え合い、「違い」を埋めるよう努めています。3カ国の学生が仲良く共同生活をしている一方、メディアでは国同士の問題が報道されており、そのギャップに戸惑っているところ。国同士の問題に対する解決法はわかりませんが、中国や韓国の友人ができた今、「お互いのことを尊重したい」という思いは強く持っています。

私の考える「グローバル人材」…文化の違いを理解している人。



KWAK REGINA さん  
(東西大学2回生)

寮ではテレビを見ながらお互いの考えを話すこともあります。例えば、竹島(独島)問題について韓国にいる時は、「韓国人のものだ」と強く思っていました。このプログラムに参加して、日本人学生と話す中で彼らの気持ちも理解してお互いに相手の立場を理解することも重要なんだと感じ、日本人の意見も受け入れることができるようになりました。

私の考える「グローバル人材」…異文化や異なる価値観を理解した上でコミュニケーションができる人。



HUANG HAO さん  
(広東外語外貿大学2回生)

日本人が使う「曖昧な表現」には戸惑います。日本人同士なら理解しあえることも、「ストレートに伝える」文化で育った僕にとっては理解することが難しいのです。お互いの伝え方が異なるからこそ、face to faceで話すことの大切さを感じています。相手がどんな気持ちでその言葉を発しているのかを知ることは大切なことです。

今後の目標は、中国文化の魅力を伝えること。中国語や中国文化を心から好きになってくれる人を増やしていきたいです。

私の考える「グローバル人材」…「違い」を受け入れて、いらいらせず心広く協働できる人。

国境を越え活躍する東アジアの次世代人文学リーダーを育成

## キャンパスアジア・プログラムの今

立命館大学文学部・広東外語外貿大学(中国)・東西大学校(韓国)から選抜されたパイロット学生が3カ国を移動しながら学ぶ「キャンパスアジア・プログラム」の2学期が5月7日より本学にてスタートしました。本プログラムは、文部科学省「平成23年度世界展開力事業」に採択されており、国家レベルでの人材育成プログラムとして期待されています。



教室を移動する感覚で国境を超える

— 3カ国、3言語での共同学習 —

各国の語学はもちろん歴史や文化など人文学の知識を身につけ、さらに学生時代から国際的なネットワークをつくることのできるこのプログラム。立命館大学では、日本語の授業や、京都の文化や歴史を学ぶフィールドワーク型授業、東アジアの近現代史を中心に学ぶ日本史の授業などが展開されており、7月下旬には、東日本大震災の被災地を訪問することが予定されています。



キャンパスアジア特殊講義(日本史入門II)  
歴史認識でしばしば対立する各国の学生がその歴史について  
共に考える場になっています。



日本では、山川出版社の歴史教科書を用いています。

学生  
コメント

歴史の授業では、同じ歴史的事実でも韓国と日本では表現や内容が異なります。歴史の問題は根深いものですが、お互いが理解を合せて次のステージに進んでいければと思います。(KWAK REGINA さん(東西大学2回生))



言葉も通じない、常識もわからない異文化環境を創出。  
その中でどのようにコミュニケーションをとるかを学びます。



「異文化環境での自己」を客観的に見ることで多くの気づき  
があります。

学生  
コメント

異文化コミュニケーションを学ぶ授業では、ある国の常識の中に長くいると他国の常識を理解することが難しいと改めて感じました。また、自分が主張する前に、相手の気持ちを聞くことが大事だと感じました。(HUANG HAO さん(広東外語外貿大学2回生))